

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300121		
法人名	有限会社 あかり		
事業所名	グループホーム あかり		
所在地	瀬戸市宝ヶ丘町310番地の1		
自己評価作成日	令和3年3月1日	評価結果市町村受理日	令和3年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の入居者様がそれぞれの役割を分担し共同生活を送ることによって、認知症の進行を穏やかにし、安定した生活を送れる様に支援する事を目的としています。
その生活のリズムに合わせてその人らしき自分らしさを、持っている潜在能力を発揮できるように努め、共に歩むパートナーとして笑顔あふれる寄り添いのケアを目指しています。
目標である
「私たちは生きるを支えます」見る目、気づく目、予知する目、みんなで守ろう明るい笑顔
スタッフ一同心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2392300121-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの特徴として、同じ建物内にデイサービスを併設して運営していることで、利用者の身体状態等に合わせながらデイサービスからグループホームへの移行も可能な体制がつけられていることが特徴であり、利点でもある。今年度は感染症問題が起きたことで、地域の方との交流の取り組みが困難になっているが、例年は、運営法人全体で地域の方との交流が行われている。ホームとは別の場所で行われた毎月のカフェについては、今年度からは併設のデイサービスの場所に移して実施する取り組みが行われており、現状で可能な範囲で地域の方との交流が行われている。また、今年度は利用者の外出も困難になっているが、感染症対策を検討しながら利用者の外出の機会を確保する取り組みが行われており、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような支援が行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和3年3月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設内の目の届くところに掲示し、常に理念を念頭に置いて業務につなげられるように努めている。目標である、見る目、気づく目、予知する目、みんなで守ろう明るい笑顔を実践の為努力している。	開設時からの理念である「共想い(ともおもい)のケア」を支援の基本に、理念に関する職員への働きかけが行われている。また、理念をパンフレットにも記載し、家族にも理解を深めてもらう働きかけも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響もあり交流できる機会が少なかった。地域の中学校の慰問も中止になった…が学生たちが自ら作成したクリスマスコンサートのCDを奥手くださった。また町内会が主催する地区一斉清掃に入居者と参加し交流に努めている。	今年度は、感染症問題が起きたこともあり、近隣の方との交流が中断したり、例年は開催されている地域の行事が中止なる等の影響が出ているが、近隣の清掃活動や防災の取り組み等、近隣の方との交流を継続している。	地域の方との交流については、定期的なカフェを開催する等、積極的な取り組みを行ってきたこともあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が行われることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの影響で地域の人々への機会が得られていない。併設している隣のデイサービスで、10月から共想いカフェを開催し活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルスの影響で開催できなかった。ただし事業所内で開催、照会し報告している。	今年度の会議は書面による実施となっているが、会議を開催する際には、様々な分野の方の参加が得られており、会議を通じて情報交換の機会にもつながっている。また、例年は、市職員の出席も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者とは必要に応じて密接に連絡を取りながら運営しています。疑問点などは連絡し情報交換に繋げたり、地域密着部会に参加、はたやま地域包括支援センターとの情報交換を行っています。	ホームでは、併設事業所とも連携しながら市担当部署との情報交換の機会をつくり、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、例年は、市内の介護事業所が集まる連絡会を通じた情報交換も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミニミーティングを通してスタッフ全員が身体拘束を正しく理解するよう努めています。フロー内にミラーを取り付け、キッチンからホール全体を見渡せる様にし、玄関はなるべく施錠しない様に努めている。左記の行為を理解したうえで入居者様へのケアを行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われているが、やむを得ない場合には、市担当部署とも連携しながら対応する取り組みが行われている。また、運営推進会議も活用した身体拘束に関する報告や職員研修の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に職員同士で連携をとり虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要な方に活用している。権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族等に疑問点や不安が無いよう、十分な説明を行い、署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの声、意見等が伝わる様に声掛けに工夫をしている。管理者は時々家族に連絡をし状況をお知らせし意見交換している。 又意見が提示された時、管理者・職員と話し合い検討している。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は行事等を通じた家族との交流の機会がつけられている。管理者が法人代表者でもあつたことで、家族からの要望等には柔軟に対応する取り組みが行われている。また、毎月の便りの作成が行われている。	家族との交流が困難になっていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、家族との交流会等の取り組みが行われることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや職員研修等で職員の意見や提案を反映する機会を設けている。代表者が常にホームの事を気にかけて色々立案していただきそれに応えいろいろ意見を述べたり、提案したりと、より良いホームにする為、話し合っている。	毎月の職員会議が行われているが、1ユニットのホームである利点も活かしながら、日常的に管理者との情報交換を行いながら、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員との個別面談の機会もつづられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職務状況の評価について、代表者が職員と面談して、公平に判断するようにしながら、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に内部・外部研修を行ったり、実技指導にも力を入れている。又必要な研修に申し出があれば参加できる様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	新型コロナウイルスの影響で左記の機会を設けることができない。代表者がオンラインにてネットワークづくりを構築している。今後活用出来るよう努め、質の向上に努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の生活歴を把握し、センター方式を活用し、本人の希望や不安などを把握しながら、本人の声に耳を向け、利用者本位のケアを心掛けている。利用者をよく観察しながら情報を収集し必要なケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族が困っていること、不安又は希望をじっくり伺い、それらの解消に努めている。きちんとサービス内容を説明しその時必要な支援を行えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人とその家族とは、必要としている事柄が異なるので、よく話し合いケアプラン立てている。必要であれば他のサービスを紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で洗濯、掃除、調理など出来る事は一緒に行っている。本人の潜在能力をに配慮しながら、生活を共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルスの関係で会う機会が少なかった。管理者が定期的に連絡し状況を伝えている。 又月一回のお便りでホームでの生活の様子をお知らせし、家族との一体感を失われない様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの関係上、思いはあるが実践につなげていない。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には入居前からの関係の方と交流を継続している方もあり、可能な範囲で交流が行われている。また、身内の方の葬儀等にも参加できるように家族と連携した取り組みが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を職員が把握し上手に関わり良好な関係が築ける様支援している。家事活動、食事、レクリエーション等、共に行う作業等を通してお互い孤立しない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人・家族等の関係を大切にし、契約終了後もいつでも相談や支援に努め、より良い関係が保たれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	事前に本人の生活歴等を確認し、本人の意思に沿えるよう一人ひとりの思いや希望に関心を持ちケアプランとして検討している。	1ユニットのホームである利点も活かしながら日常的に職員間で情報交換を行い、利用者に関する意向等の把握と共有につなげている。また、カンファレンスの機会をつくり、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に家族、本人から出来るだけ詳しく生活歴、希望、意向等を聞き、本人の生活歴等を確認し、本人の希望、意向の把握に努め、職員が周知するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックを行っている。毎日状況変化を記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミニミーティングをこまめに開催し、意見を出し合い、アイデアを反映し介護計画の作成に努めている。	介護計画については、職員間での検討も行いながら6か月までには見直すように実施しており、状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも細かな記録を残すように取り組んでおり、定期的なモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24Hシートに気づいたことがあれば記入し、日常の記録を基に申し送りの際、情報共有に努め、介護計画の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や、家族の状況、ニーズに応じて対応し、柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	安全第一に考え、初詣、桜の花見、紅葉狩りなどの行事に共に参加し、楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医による月1回の往診を行っている。入居時、今までの主治医から情報提供をお願いし入居後、懲りなく支援で来る様にしている。 かかりつけ医との関係性を大切にしながら何かあればすぐ、電話や文書で報告し適切な医療を受けられるように支援している。	協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた支援につなげている。受診については家族にも協力をお願いしており、必要な情報提供が行われている。また、週1回の訪問看護が行われており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションの週1回の訪問があり、24時間いつでも連絡が取れる体制にしている。週1度の訪問時情報を伝え、個々の利用者の健康に関する相談にも助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から、紹介状を作成して頂き、情報交換に努めている。 定期的に入院先にいたり、家族と連絡取り医療機関との情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、家族に週末期についての考えを伺い、ご希望に添えるよう同意書を頂いている。主治医の先生に相談しながら家族と話し合い方針を共有し支援に取り組んでいる。主治医、訪問看護ステーションと連携を図り体制を整えている。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続することができるように支援が行われており、ホームでの看取り支援にも対応する取り組みが行われている。意向等に関する家族との話し合いを重ねており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルを事務所に置いていません。 職員が救命救急講習を受講するよう努め、急変や初期対応について実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回火災報知器点検時、避難訓練を行っている。地域の避難訓練に参加し地域の近隣住民との協力体制に努めている。	年2回の避難訓練を実施しており、併設のデイサービスと連携した訓練も実施している。地域で行われている災害に関する活動にホームからも参加している。また、備蓄品については準備を進めている段階である。	建物の構造上の制約もあり、避難経路が限られていることもあるため、夜間対応も含め、職員間で継続した取り組みに期待したい。また、合わせて備蓄品の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の思いを傾聴によって感じ取り、その人らしさを尊重した声掛けや言葉かけに努めている。できなかったときは反省し次に活かせる様努めている。	ホームの基本理念でもある「共想いのケア」をはじめ、管理者からもホームの目標でもある、「見る目、気づく目、予知する目」を意識してもらおうような働きかけも行われている。また、接遇にもつながる研修も行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中、コミュニケーションの中で、又傾聴により本人の思いや気持ちを知る機会を作り自己決定出来る様、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせた生活をして頂くよう心掛けている。職員側の都合を優先せず、常にコミュニケーションを図り、強制しない等利用者の気持ちの把握に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髭剃りや、整容を本人と共に行ったり、2か月に1回訪問理美容に来て頂いている。起床時洗面台で鏡を見て整容して頂くようにしている。(髪をとかし顔を洗い自分の姿を鏡で見る)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る家事は分担し行えるよう支援している。一緒に調理の下ごしらえ、下膳、洗い、片付け等行っている。食事が楽しめるようメニューを説明している。	食材業者のメニューを基本に調理が行われており、利用者の身体状態にも合わせた食事形態の提供も行われている。利用者の中には調理や片付けに参加される方もいる。また、おやつ作りや季節等にも合わせた食事作りも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日食事量と水分量をチェックし一人ひとりの状態に応じて柔軟に対応している。一人ひとりに合った食べる量を提供する様努めている。水分摂取もろみが必要な人にはとろみ量を調節し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアの支援を行っている。二次的な病気にならない様出来るだけ丁寧に行うよう努めている。毎月2回歯科医院の往診と月1回衛生士から口腔ケアの指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	毎日排尿排便記録をチェックし職員間で共有し一人ひとりの支援に努めている。それぞれ利用者の排泄パターンを把握し、声掛け、誘導に努めている。できる限り最後までトイレでの排泄を目指す事を目標とした自立支援を行っています。	A3サイズの手紙も活用しながら排泄に関する記録を残し、日常的に職員間で情報の共有を行い、一人ひとりに合わせた排泄に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本と考えながら、排泄状態の維持、改善につなげている。また、訪問看護とも連携した支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日頃から水分摂取や適度な運動を心掛けている。必要に応じて主治医と訪問看護師と相談しながら、下剤等を服用しコントロールすることもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日、時間帯などすべての利用者の希望に合っていないが、できる限り無理の無い様に心がけ、気持ちよく入浴できるよう努めています。	ホームでは、月・火・金・土の週4日の入浴日があり、利用者が週2回の入浴するように支援が行われている。身体状態の重い方も入浴することができるように複数の職員による支援も行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムをなるべく壊さない様支援し、個々の生活スタイル、生活習慣に合わせて休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報をファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。定期的に個人ファイルから薬の効能、注意点を目を通し薬が変わった時等その後の様子を要観察している。又薬剤師の訪問により薬のセットを毎週行っており、情報交換している。変化や疑問点などは相談援助して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の生活歴や日々の生活の中で一人ひとり出来る事を把握し、その人に合った事を提供できるよう支援させて頂いている。食後のコーヒーや家事活動を通して気分転換にさせて頂く様、努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響でなかなか支援ができなかったが、近所の散歩をはじめ、全員ではないがドライブや花見、紅葉狩り、誕生日の方には管理者と外食企画など、定期的に外出支援が出来る様努めている。	今年度については、利用者の外出が困難な状況になっているが、近隣の散歩をはじめ、自動車を活用したドライブ等、現状で可能な取り組みが行われている。また、季節に合わせた外出行事等、感染症対策を行いながら外出を継続する取り組みが行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は、全員ではないが家族の都合で事務所で預かり保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	いつでも電話かけられる様支援しています。家族の事情、認知症の進行状況により電話ができないことがあります。年賀状等を出せる様、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールやテーブルに花を飾ったり、壁には季節のわかる作品を飾ったり心地よい空間作りに努めている。お雛飾りは、皆で七段飾りを飾り完成させている。	ホームのリビングについては、広めの空間が確保されており、利用者が日中の生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。また、リビングの壁面には季節に合わせた飾り付けや利用者の作品の掲示を行う等、アットホームな雰囲気がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールには、テーブル以外にソファを3ヶ所配置し思い思いに過ごせるようにしている。清潔を保ちクッションやひざ掛け等を置いている。又、気の合ったもの同士の交流に心がけ、居室での静養も大切にしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には家族と相談し、使い慣れた物などを活かし安全、安心した生活が出来る様努めている。本人の慣れ親しんだ品や、家族との写真などで心穏やかに過ごせるよう配慮しています。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた家具類の持ち込みを行い、今までの生活の延長になるような支援が行われている。また、利用者の移行にも合わせて居室の壁面に家族の写真を掲示する等、家族との関係を大切にす配慮も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	室内はすべてバリアフリーであり、動線には手すりを設置している。利用者が理解できる様に、居室の入り口には本人の写真入り、あかり通信が額に入れ飾ってある。		